# 2021 年度森泰吉郎記念研究振興基金

# 研究者育成費成果報告書

**研究課題名: 「信念と主観確率から探る妥当性評価の認知メカニズム」**

政策・メディア研究科 修士 1 年 近藤　大貴

**【研究概要】**

本研究の目的は人が妥当性評価を行う際に、その背後にはどのような認知メカニズムに基づく推論が働いているかを探索することである。

実験では新型コロナウイルスに対するワクチンの有効性をテーマにしたものと自粛の有効性をテーマにした 300 文字程度の文章を実験参加者に読んでもらい、その内容の論理的な妥当性を評価してもらった。本研究ではその評価はどのような推論メカニズムに基づいてなされているのか検証した。

実験参加者が評価を行う文章ではそれぞれのテーマについて肯定的あるいは否定的な主張がなされている。またそれらの文章は演繹的に妥当な論理構成、あるいは演繹的に非妥当な論理構成のどちらかに基づいて作成されている。つまり実験参加者はテーマごとに肯定的で妥当な論理の文章、否定的で妥当な論理の文章、肯定的で非妥当な論理の文章、否定的で非妥当な論理の文章を読み、計 8 種類の文章を評価した。文章中で主張の根拠として引き合いに出されたことがらをどれだけ事実であると思うかについても評価してもらった。

また事前に実験参加者に対してアンケートを行い、各テーマに対する賛成度および文章で主張の根拠についてどれだけ事実であると思うかについて調査を行った。

分析の結果、文章の演繹的な妥当性は実験参加者の妥当性評価に影響しないことがわかった。また、事前のテーマに対する賛成度は評価と関連するが、その影響は主張の根拠に対する評価に仲介された。ただし、事前のアンケートで調査した主張の根拠に対する評価は関連していなかった。このことから実験参加者は自らの文章の妥当性評価につじつまを合わせるように、根拠は信頼できるものであると都合よく認識を変更した可能性が示唆された。

本研究の結果は、人は確からしい根拠と妥当な論理に基づいた主張を正しいと評価するのではなく、主張が正しいと感じた場合に根拠が確からしく妥当な論理に基づいていると評価する可能性を示している。これは人々が適切な情報の評価および意思決定を行うための重要な知見をもたらすものである。

**【謝辞】** 本研究は、2021 年度の森泰吉郎記念研究振興基金研究者育成費に採択いただき 、実施することができました。この場を借りて心より御礼申し上げます